

令和元年10月24日
高次脳機能障害等の受け入れ促進研修会
於：国立障害者リハビリテーションセンター

就労移行支援事業所の 取り組みについて

～一般就労に向けた支援～

特定非営利活動法人クロスジョブ
クロスジョブ阿倍野
辻 寛之

【本日の内容】

1. クロスジョブの高次脳機能障害のある方への支援
2. 支援の屋台骨となる内容について
3. まとめ



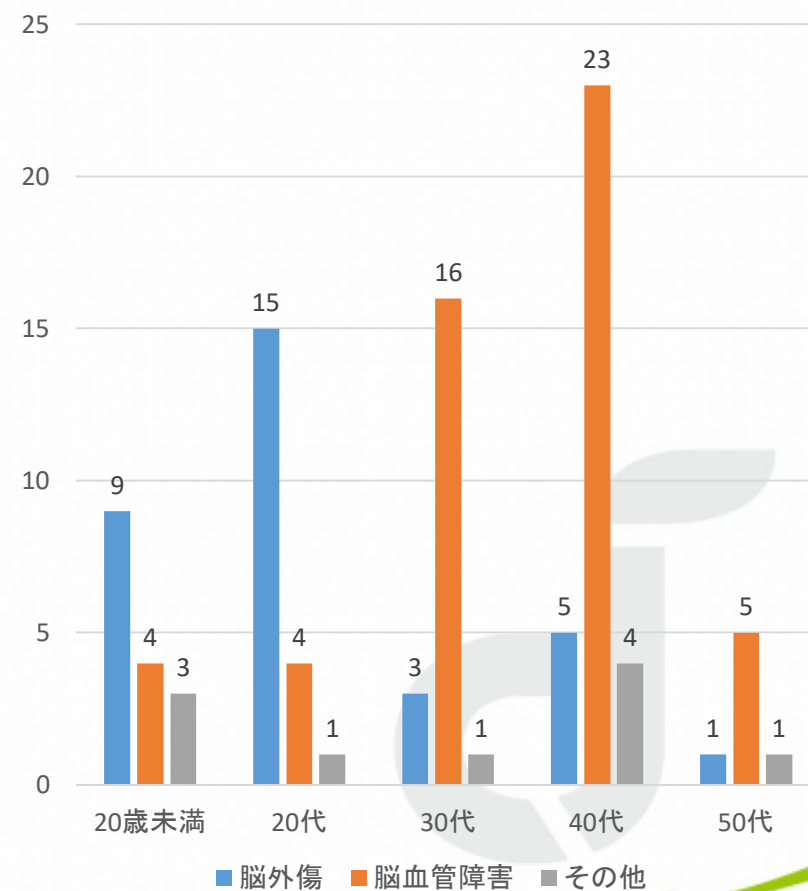
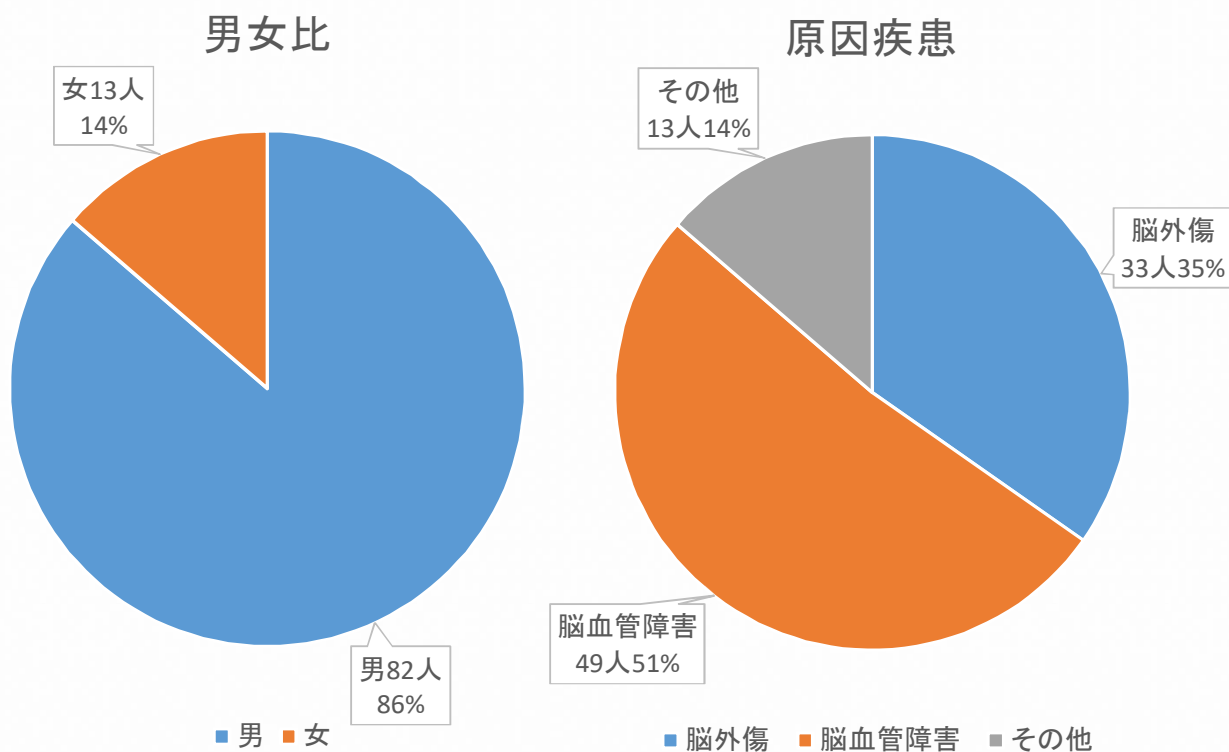
1. クロスジョブの高次脳機能障害のある方への支援

- 高次脳機能障害のある方の利用者概要
- 利用状況
- 就労移行状況
- 就労支援結果と定着状況
- 高次脳機能障害就労支援
- 高次脳グループワーク
- 事例紹介
- 地域連携と人材育成



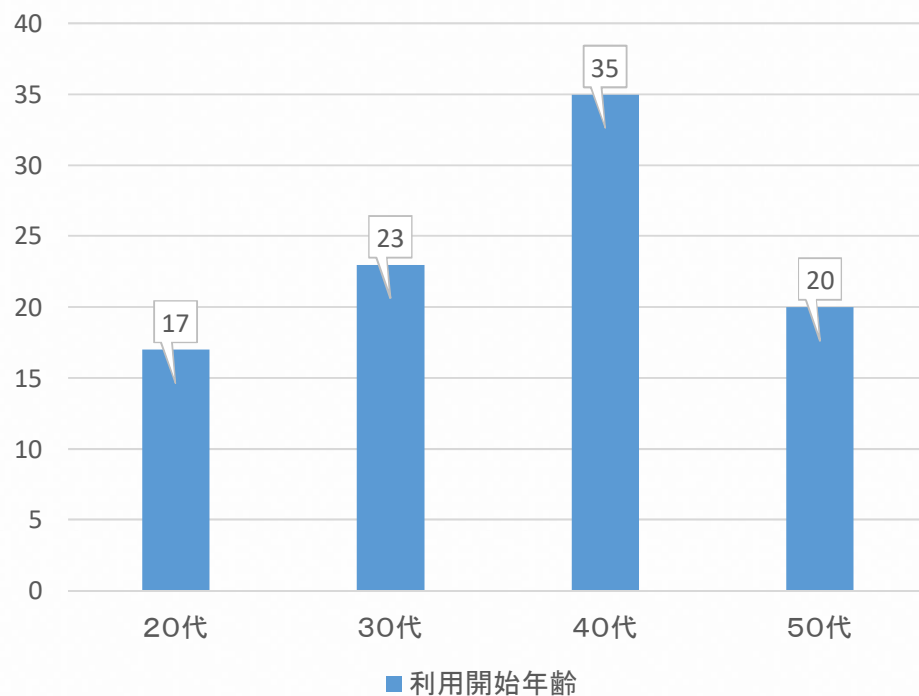
高次脳機能障害のある利用者概要(95人) 2018年9月末

年代別疾患

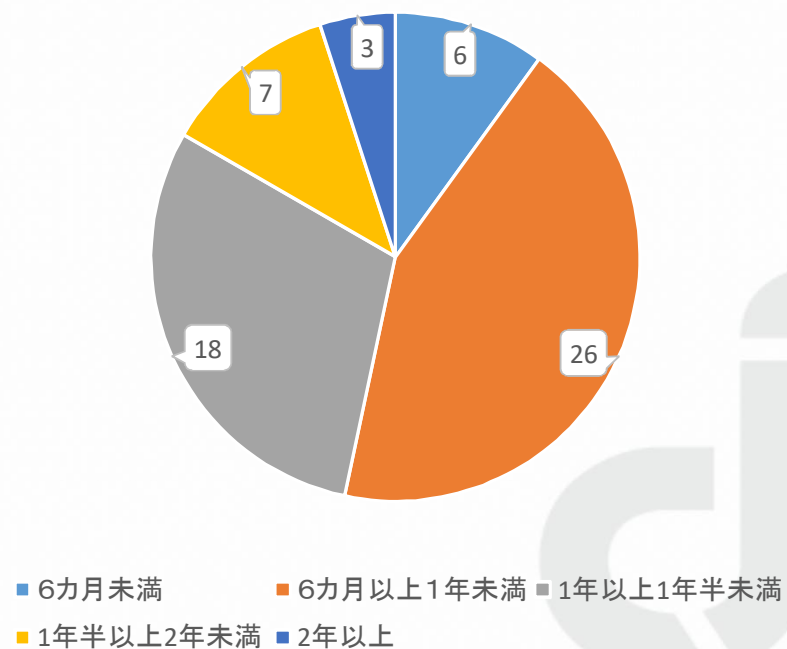


利用状況

利用開始年齢

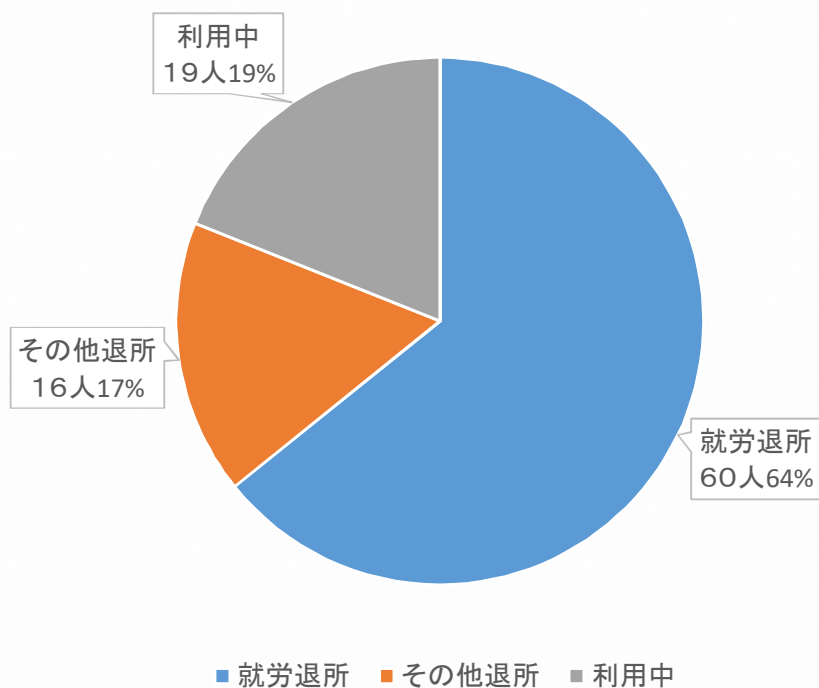


就労までの利用期間

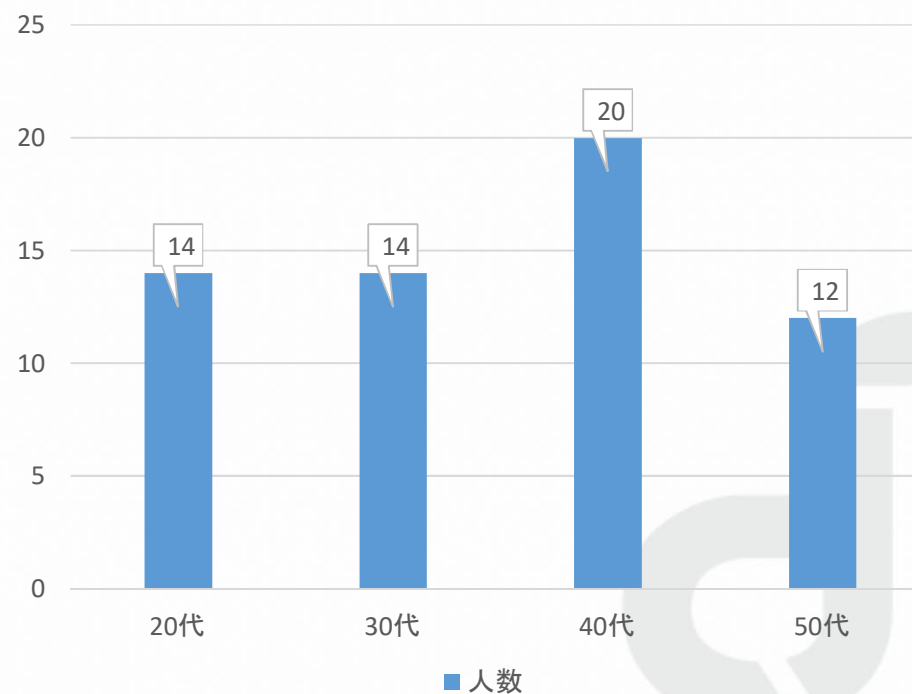


就労移行状況(就労退所者60人)

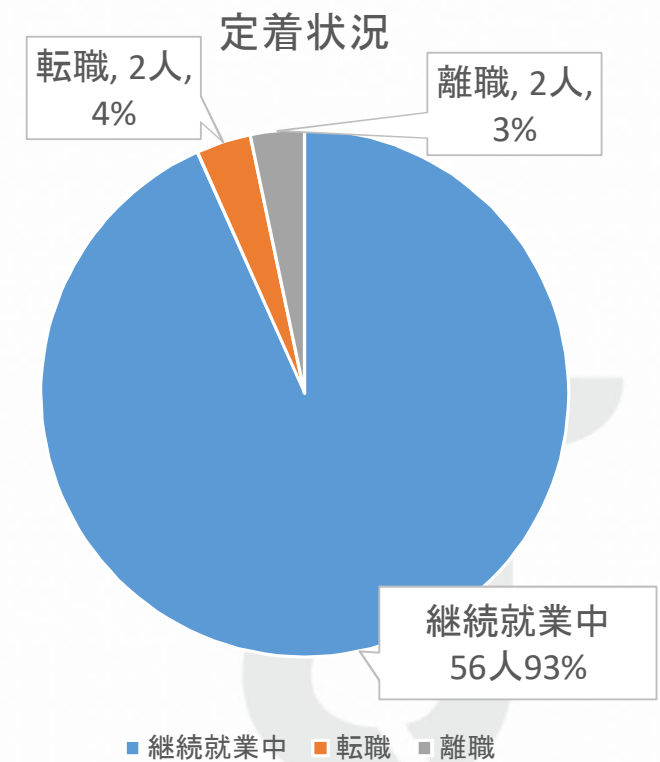
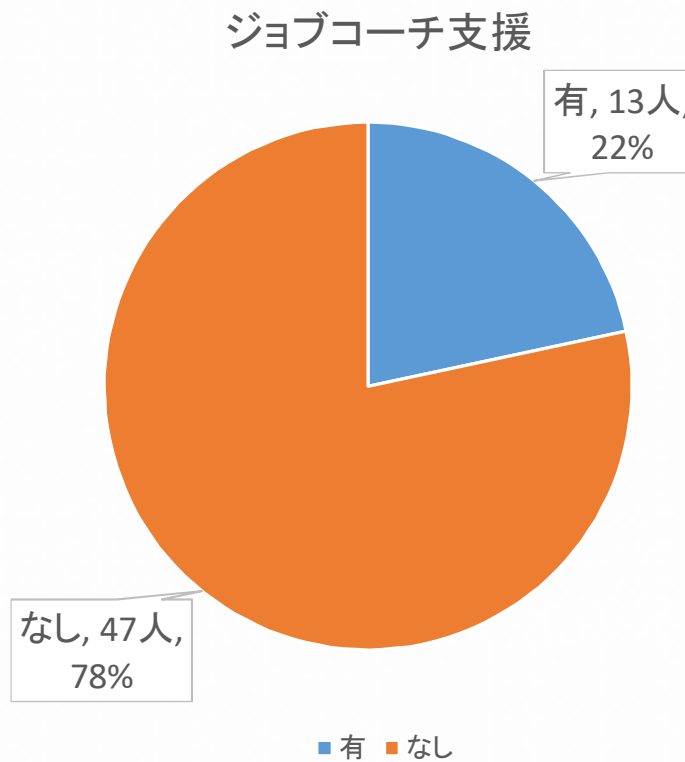
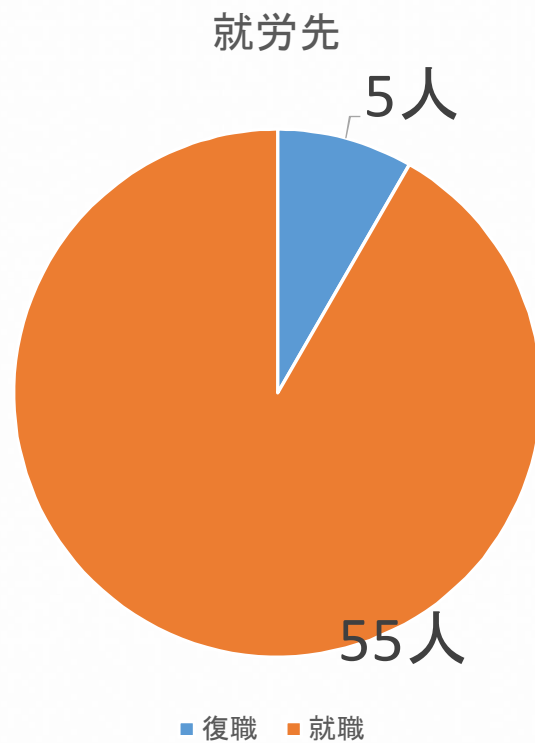
支援結果



就労退所者の年齢区分



就労支援結果と定着状況



今年度の阿倍野事業所では

(2019年10月15日現在)

- 定員20名の5割を占める10名の高次脳機能障害がある方に利用して頂いている。
- 就職者8名中、6名が高次脳機能障害、6名中、新規就労4名、復職2名
- 新規利用者13名中7名が高次脳機能障害

高次脳機能障害就労支援

■易疲労性への配慮

■病識への対応、気づきを促す

- ☞ 自分自身への気づき(知識→体験→予測へ)
- ☞ 同じ障害の相手との「グループワーク」

■ゴールへの見通しと代償手段の取得への意欲

- ☞ 就職[会社環境]というゴールと繋ぎながら本人の課題を整理
- ☞ 企業実習と企業からのフィードバックが重要なポイント

■企業開拓・復職に向けた企業との調整

- ☛ 受傷・発症前に働いていた経験を活かすことも重要

■職場定着

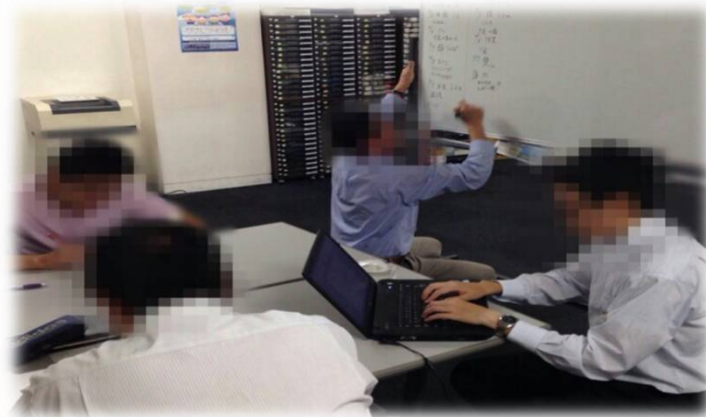
- ☛ 「仕事を覚える」ためにジョブコーチ支援や雇用後のフォロー

■医療機関との連携

- ☛ 医療従事者にも取り組みを知って頂く(事業所内見学など)
- ☛ 外来リハビリとの連携、受診同行など
- ☛ 医療リハビリ経験者(作業療法士)の配属



高次脳グループワーク



障害特性
長所・短所
得意・不得意

障害のオープン・クローズ
配慮事項の伝え方

自己理解
他者理解

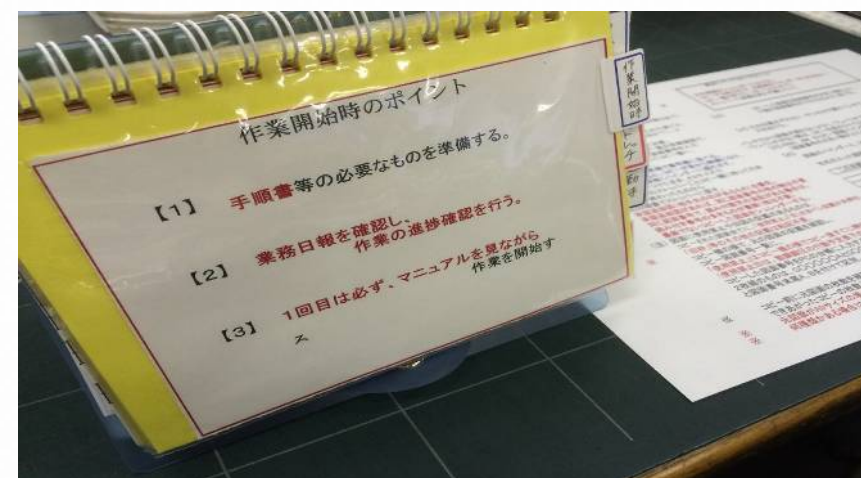
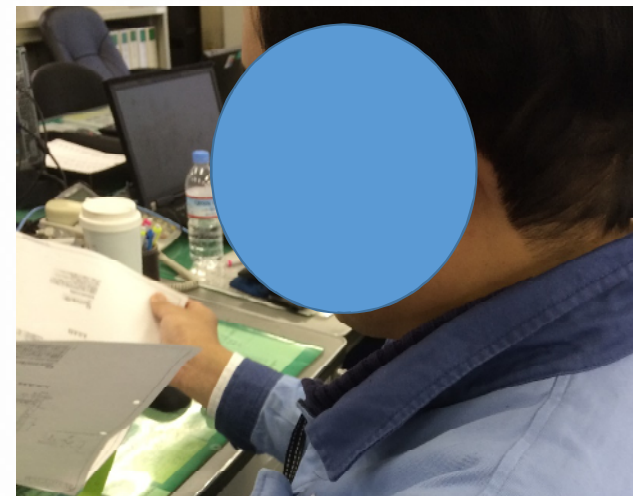
履歴書・職務経歴書の書き方
面接の受け方

職場実習経験者、
就労退所者からの話
(働くとは／代償手段の活用
対人関係の築き方 など)

- ◎高次脳機能障害の方のみ
- ◎障害特性や悩み、出来る事・しにくい事など、具体的な内容で共有
- ◎あるある体験
- ◎人のふり見て我がふり直す
- ◎他者理解・自己理解から気づきを促す

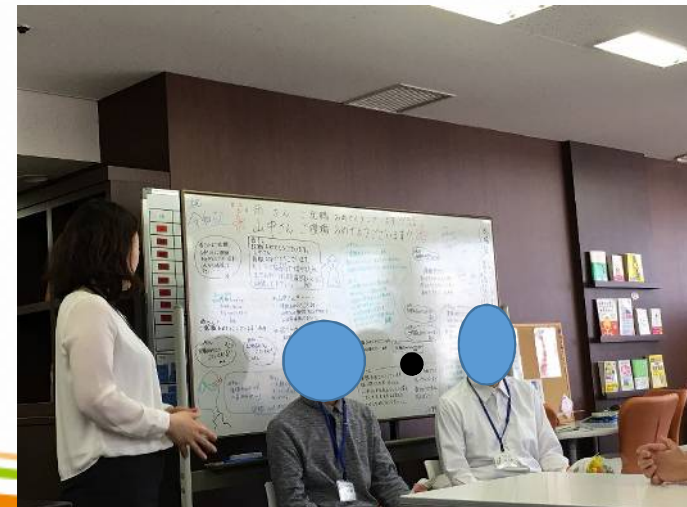
事例① 自立訓練と ジョブコーチとの連携で

- 脳腫瘍治療後、後遺症として高次脳機能障害
- 自立訓練から並行利用でクロスジョブへ
- 易疲労性への配慮、代償手段でのリマインダー、ほぼ日手帳活用
- 受診同行で主治医との情報共有
- 前職経験を活かしたマッチングへ
- 職場で活用できる自具作成
- 実現場で作業内容に班化していけるかを
ジョブコーチとの連携で



事例②外来リハとの連携で復職へ

- 脳出血後、右麻痺、失語症、高次脳機能障害
- もともと内科のDr
- 週2日から訓練スタート、残りの曜日は外来で言語療法へ
- 言語聴覚士、主治医と連携のもと、復職先病院とのアウトリーチはクロスジョブで
- 復職後の業務切り出し、本人の意向の尊重
- 週2日から出勤へ



事例③復職先企業に高次脳機能障害を知って頂いて



- 脳梗塞後遺症にて高次脳機能障害
- もともと研究職
- 易疲労性が強い中、休職期間満了が近づく
- 高次脳機能障害と本人のことを復職後の部署の方々約10名に企業内で説明
- 1日1.5時間、週2日からの勤務形態に契約変更して復職

地域連携と人財育成について

- 大阪高次脳機能障害就労支援勉強会の立ち上げ
- 大阪高次脳機能障害リハビリテーション研究会への参加
- 医療機関スタッフの見学受け入れ
- 外来診療や外来リハビリへの受診同行、リハビリ同行
- 地域リハビリ病院の見学
- 企業での高次脳機能障害と本人特性の説明
- 大阪府高次脳機能障害支援普及事業への協力
- 高次脳専門外来の立ち上げへの関与



札幌では

高次脳機能障害でお悩みの方、ご家族へ

クロスジョブ通信 おとどけ隊

第2号

開所して1年が経ちました！

開所して1年、クロスジョブ札幌から1名の方が就労することとなりました。今回は、クロスジョブでの支援の流れを利用者さんのコメントと一緒にご紹介したいと思います。

基礎訓練 事業所内での訓練を通して働くルールやマナーを学びます。

学習 パソコン 施設外就労



訓練後、すぐに振り返りをし、今後の対策と一緒に考えてくれます。

「自分で考える」ことで働く上での対応していく力や解決していく力を身に付けていくことができます。

カラオケ店（清掃業務）に行き、以前は出来ていたことが上手いかなかった。自分1人では難しいと気づき、小さなことでも店員さんに報告するようになりました。



企業実習 実際の企業現場を体験し、得意なこと苦手なことを整理します。



実習を行い、報連相を適宜することやメモを取ることの重要性を学びました。

クロスジョブのスタッフの方が事前に実習を体験し、自分にあった業務の洗いだしや、自分や企業さんとの密な打ち合わせをしてくれたことで、安心して取り組むことができました。



就職 長く働くことが出来る仕事への就職を目指します。



弱くなった記憶をカバーする術を身に蓄け、自分の長所を見つけ出すのが就労への近道です。入社時就業条件のすり合わせと職場に入った際にそれを確立させるためのバックアップとして就労移行支援事業所は大きな力となるはずです。

H30年2月
特別養護老人ホームで
介護補助スタッフとして就職

URL: www.crossjob.or.jp/facility/6 詳しくはこちら！

019/10/24

施設紹介 訓練内容 スタッフ紹介 パートナー企業との訪問 利用者日記

トップページ アクセス お問い合わせ

たくさんの方と出会うことができました！

※高次脳機能障害の方のみ的人数になります。

相談・見学

約24名

訓練や高次脳グループワークを見学、行うサポートについて説明します。

体験利用

20名

体験してどう感じたか、スタッフと一緒に話を整理をします。

利用開始

11名

障害の症状を整理してどのような工夫でミスが減るのか一緒に考えます。

就職！

1名

現在、実習や見学など就職活動に動き出す方が増えています。連携先の企業様も増え、益々動いていく予定です。

現在の状況

昨年4月の開所から、一番長く利用されていた方が就職をされました。「やりがいがあるのが楽しい」「戦力になってきている」とご本人、企業様から何い嬉しいと思います。今月は企業実習や企業見学にチャレンジする方もおり、忙しい中でも充実した日々を過ごされています。

関係機関の方のサポートもあり、利用される方、見学の方も増えてまいりました。皆様のご希望に添えるようスタッフ一同尽力して参ります。

角井が走る！ ②

クロスジョブ札幌が開所となり1年が経ちました！昨年1年は利用者さんへの支援と同時に病院への挨拶まわりという、タイトル通り走り回った1年でした。病院訪問は1年間で約30件。そのうち4件の病院さんから講演依頼をいただき、とても有意義な時間をいただきました！クロスジョブ札幌の概要や就労移行支援事業所とはどんなところなのか。どういった流れで利用できるのかなど色々なことを説明させていただきました。福祉サービス自体を知らないハビリススタッフさんにも勉強会という形で講演させていただきました。病院勤務だった頃にこういった機会があったらよかったですなあとしみじみ感じました。今年度も走り回っていこうと思います！！ご相談、講演依頼大歓迎なのでぜひご一報いただければと思います！



見学と体験利用を随時受付中！ さすはお気軽にご連絡ください。



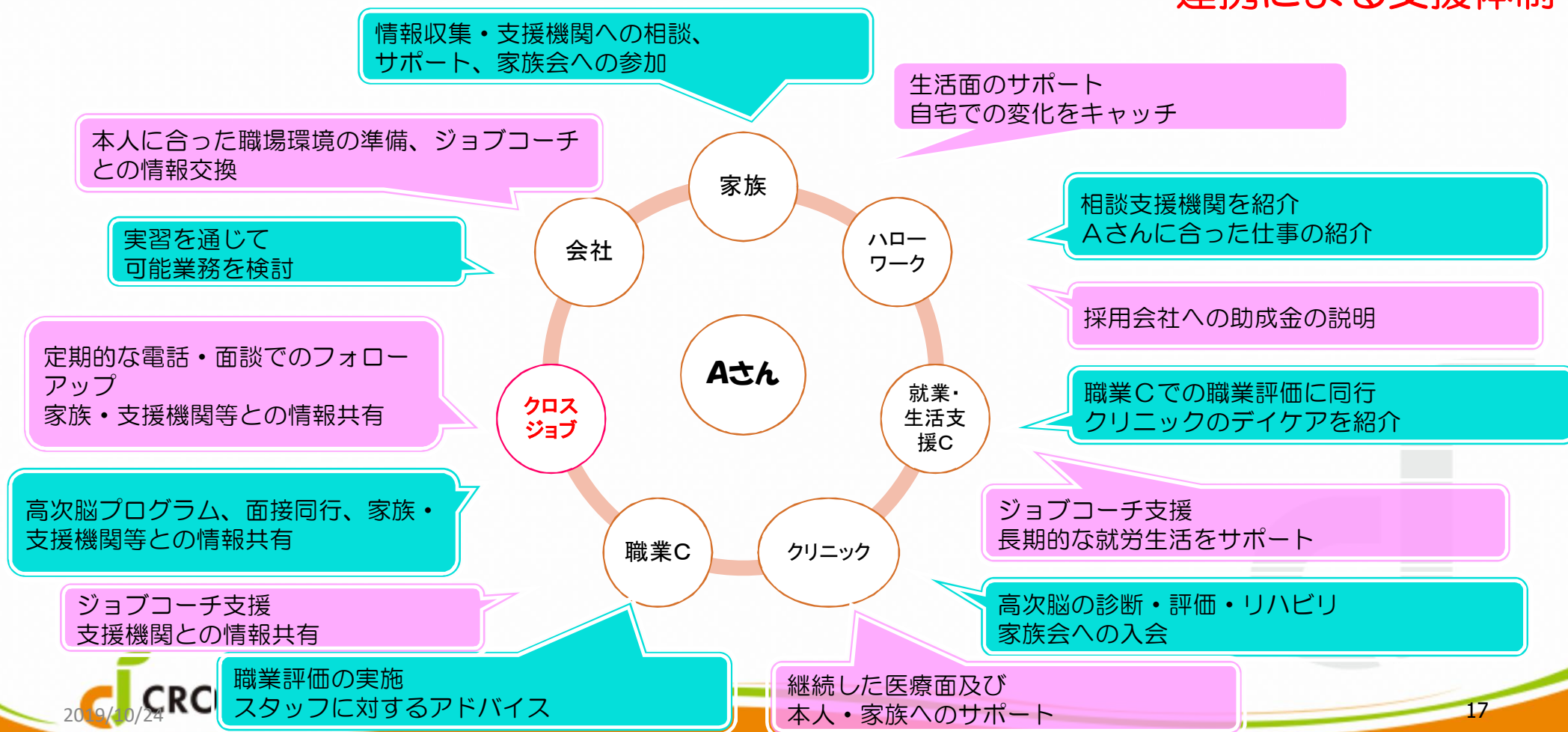
NPO法人 クロスジョブ
クロスジョブ札幌（就労移行支援事業所）
〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西3丁目3番地4-1
マルイト時計台前ビル8階
営業時間 8：40～17：25
TEL 011-596-0622
FAX 011-596-0623
法人HP：www.crossjob.or.jp
札幌HP：www.crossjob.or.jp/facility/6

◎「通信」を作成して病院や地域関係機関へ奔走中

◎復職支援でも受給者証がおりにようにアンケート調査等で奔走中

地域の中で連携して地域就労支援を

連携による支援体制



2. 支援の屋台骨となる内容について

- クロスジョブの概要
- 相談と支援の一体的支援
- 就労アセスメントに必要な視点
- 訓練内容
- 1日のスケジュール
- 職場体験実習
- 雇用を見据えた職場実習



クロスジョブの概要について

1) 立ち上げの経緯・目的(法人設立2010年2月16日)

- * 就労移行支援制度の確立
- * 既存の福祉施設(多機能型)では、ニーズに応えられない現状への対応

2) 立ち上げの際に決めたこと

- * 就労移行支援事業のみ(単機能)
- * 非営利のNPO法人
- * 駅前、ハローワークに近い、オフィスビル内に訓練事業所を開設
- * 訓練と相談の一体的支援 (作業所にしない)
- * 利用者像は、就職が1人では難しいが既存の福祉施設が苦手な方
- * 高次脳機能障害のある方の一般就労支援

3) 理念

希望と約束を大切に 日々の支援を振り返り高めあい
障害のある方が企業で働く未来に貢献します

2010年スタートから10年

実績(2018年度末)

利用者総数 634人
就労退所者数 381人(就労退所率約78%)
継続就業者数 301人(継続就業率約79%)

クロスジョブ札幌2017/4/1

クロスジョブ米子2016/10/1

(クロスジョブ東京2013/4/1)

クロスジョブ草津2015/4/1

クロスジョブ堺2010/4/1

クロスジョブ阿倍野2012/4/1

クロスジョブ梅田2014/1/1

クロスジョブ鳳2017/1/1

相談と訓練の一体的支援

経験と気づき



毎日の振り返り
個別支援計画の振り返り、作成
緊急な相談対応

利用開始から就職まで原則同じ担当者が支援

アセスメント&エンパワメント&ジョブマッチング

相談する関係づくり

職業準備性、不安や苦手なこと、ストレスの共有・整理

3~6カ月

事業所内各訓練
スタッフとの面談

自分を知り、働き続ける為に必要なことを整理

- ・自己紹介シート作成
- ・企業のフィードバック
- ・自信と課題の整理

3~6ヶ月

企業見学
体験実習

- ・自己紹介シート更新
- ・適職選定

3~6ヶ月

雇用前実習
採用面接同行

会社の雇用管理へ

目標は、働き続けること

トライアル雇用
ジョブコーチ支援
就業・生活支援センターとの連携



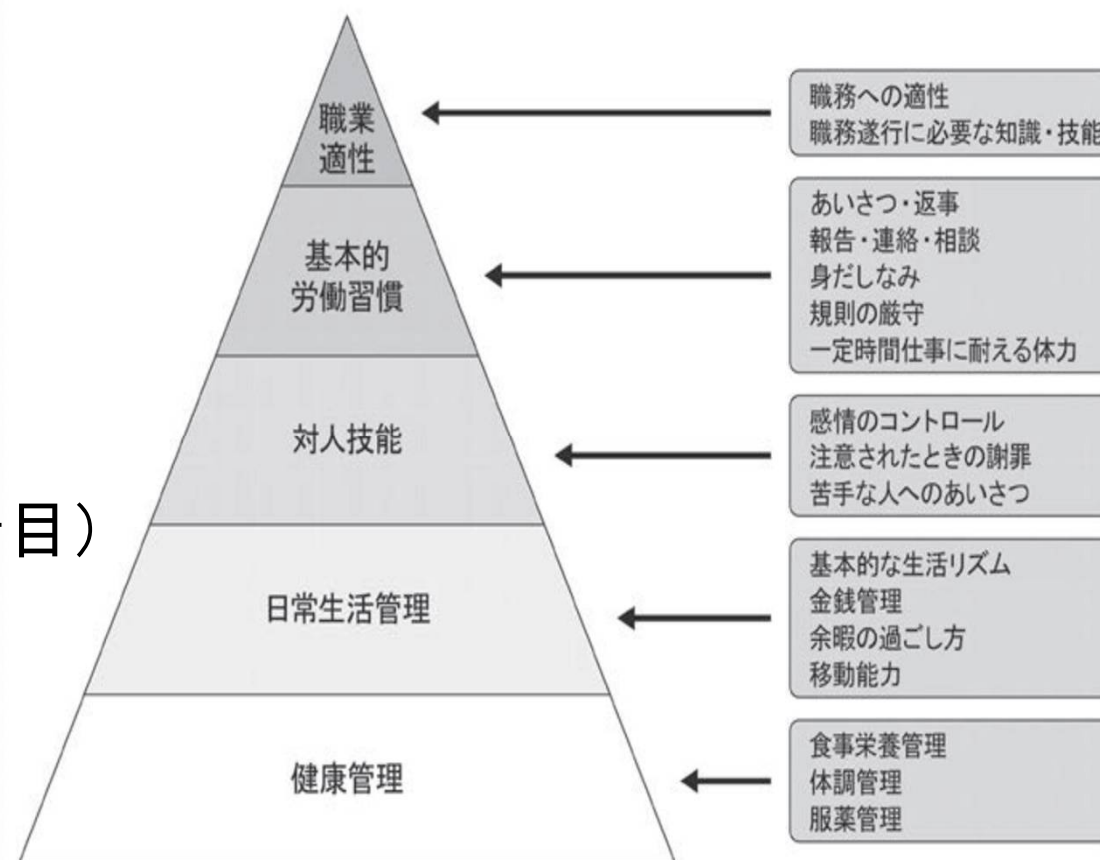
地域の支援ネットワークで

新しいチャレンジ！安心して失敗できる場所

利用開始から就職までおおよそ1年を目途に支援(見通しを共有)

就労アセスメントに必要な視点

- 職業準備性(本人の概要)
- 働きたい意欲と自己効力感
(希望・経験・不安・サポート度合)
- 見た目からわからない障害
(自己理解、気づきのレベル)
- 支援者が多くの企業を知る
- 多様な環境で見立てる
(環境・人的要素との相互作用に着目)
- ジョブマッチング
- 自分の取扱説明書
(自己紹介シート)



訓練内容

■施設内訓練

- ◎パソコン：タイピング、オフィスソフトウェア、入力業務、ブログ更新、メール練習など
- ◎軽作業：中小企業からの請負業務
- ◎基礎学習：認知訓練課題、メモ取り課題、漢字、計算など
- ◎ワークサンプル：数値チェック、物品請求、ピッキング、プラグ・タップ組立、日報集計など
- ◎事務所清掃、事務補助
- ◎高次脳グループワーク（週1回）：自己理解、他者理解、仕事について、面接準備など

■施設外での支援、施設外での就労訓練

- ◎職場体験実習（各企業）
- ◎お線香の箱詰め（実企業内）
- ◎スポーツジムでのレンタル用品補充（実企業内）
- ◎パレット洗浄（実企業内）

■就職活動

- ◎ハローワークでの求人検索（週1日から）
- ◎履歴書・職務経歴書の作成
- ◎面接練習
- ◎雇用を見据えた職場実習

1日のスケジュール(毎週水曜は午前のみ)

9:00～ 9:25	出社、タイムカード打刻、 シフト表の管理
9:30	全体朝礼
9:35	ラジオ体操
9:40	グループ朝礼 (目標の確認)
9:45	業務開始
11:40	上司への報告 (日報記入後、上司へ提出)
11:55	グループ終礼 (目標達成度の報告、業務報告)
12:00 ～ 13:00	片づけ後、昼休憩

13:00	グループ昼礼 (目標の確認)
13:05	業務開始
14:50	上司への報告 (日報記入後、上司へ提出)
15:05	グループ終礼 (目標達成度の報告、業務報告)
15:10	片づけ
15:15 ～ 15:25	掃除
15:25 ～ 15:30	全体終礼 タイムカード打刻、シフト表の管理、退社

職場体験実習

職場実習 評価シート

平成 年 月 日

株式会社 御中

事業所名:

支援機関名: クロスジョブ阿田野

次のとおり

における実習状況を報告します。

実習者名						
実習期間						
評価項目	評価基準	評価				
作業態度	1. 急ぎしなみ	周囲にみさわしい服装でることができる	A	B	C	D
	2. 時間の遵守	時間を守った行動ができる	A	B	C	D
	3. 挨拶態度	働くことと積極的で、勇気を示している	A	B	C	D
	4. 責任感	決められた仕事を責任を持ってすることができる	A	B	C	D
実習内容	5. 質問・報告	分からないことがあれば自己判断をせず質問・相談することができる 内容に応じて適切なタイミングや頻度で報告・相談することができる	A	B	C	D
	6. 集中力・持続性	作業開始・終了の報告ができる 集中力を保持して作業をすることができる	A	B	C	D
	7. 準備・片付け	作業の準備、片づけをすることができる	A	B	C	D
作業状況	8. 指示の理解	指示の理解がきちんとできている 指示の相違がないように重複確認をすることができる 作業内容を忘れないようにメモを取ることができる	A	B	C	D
	9. 時間の経過	時間を意識してスピードアップすることができる	A	B	C	D
	10. 柔軟性	状況に応じて急な作業の変更に対応することができる	A	B	C	D
	11. 意欲への配慮	周りの状況を察して意欲に作業をすることができる	A	B	C	D
	12. 挨拶、挨拶	元気づく挨拶や励まをすることができる	A	B	C	D
職場人	13. 声の大きさ	進捗に応じて声の大きさを調整することができる	A	B	C	D
	14. 言葉遣い	丁寧な言葉遣いで話すことができる	A	B	C	D
	15. 始末行動	物置を片なから始末して行動することができる	A	B	C	D
その他	16		A	B	C	D
	17		A	B	C	D
	18		A	B	C	D
	19		A	B	C	D
	20		A	B	C	D

A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:できていない

<報告所部>

評価項目にある労働内容、実習態度、作業状況、対人関係は基本的にすべて京畿圏的で問題ないと思われます。評価でネーリとなった項目は障害に起因すると思われるものが多く、実習作業で右手の麻痺をカバーする作業方法を取られていたので、評価がネーリについてもご自身の工夫が必要と思われます。また、実習開始日に支援者の方から見られていた「メモを取る」については取り上げていなかったようですが、「メモを取る」ことも障害を補う工夫として認識して続けて欲しいと思います。

◎希望職種や基礎訓練で学んだ事が企業環境で通用するのか、企業実習を通じて企業評価を受ける。

◎企業にどんな点をアセスメントしてもらうのかを伝えるのがサポートブック

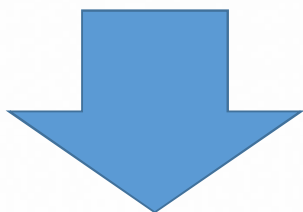
①目的:何のために職場実習を行うのか

②目標:職場実習で何を頑張るのか

③配慮:職場実習にあたり、
企業に知っておいてほしい事

雇用を見据えた職場実習では

- まずスタッフが職場体験実習→作業や職務の分析
- 作業内容、環境、人、1日の流れ、休憩時のこと、行き帰り道中、交通など様々な角度から企業アセスメント



「働き続ける」マッチングへ

※同時に自己紹介を行うシートも作成

・見た目には、障害がわかりにくい高次脳機能障害の方の履歴書+αへ

- ①戦力:なぜこの会社に応募したのか
どこが頑張れるのか、強み
- ②工夫:頑張るために、特性上、苦手な点と努力している点、訓練で取り組んでいる事
- ③配慮:会社に配慮して欲しい事
極力③は少なくなるように・・・

3. まとめ

- 見えてきていること
- 一般就労に向けて特に大事だと思うこと
- 就労支援をする中で意識していること
- 高次脳機能障害のある方の就労を焦点に

見えてきていること

就労までの期間	傾向
1年以上	<ul style="list-style-type: none">・自己への気づきが希薄・自発性が乏しい・強いこだわりがある
1年未満	<ul style="list-style-type: none">・基礎体力が備わっている・メモなど代償手段の必要性を感じ実行している・自身の気づきと客観視が合致している

- ▶ 利用前の生活訓練施設等での就労準備により、1年未満での就労の可能性はある。
- ▶ 就労までの期間が1年を超えても、他機関との連携があれば就職できる。
- ▶ 失語+片麻痺があっても自己への気づきが明確であれば他機関との連携、開拓等を通じて就職可能である。
- ▶ 利用前から雇用後まで（医療～就労）、他機関との途切れない連携が必須である。

一般就労へ向けて特に大事だと思うこと

- 本人の就労意欲と気づきの程度
- 家族や身内がいる場合はその協力度合い
- 脳卒中の場合、再発のリスクの理解と対処
- 機能訓練やADL訓練の目的が「働く」を目指したものになっているか
- リハビリや病院以外の時間の過ごし方、生活はどうなっているのか
- 自主トレやホームワークをどれ位、主体的に行えているか
- 地域社会資源を知っているか
- 障害年金等は受けられるか
- 企業内貢献度や人望はどうだったのか



就労支援をする中で意識(大切に)していること

- 人と話し、周囲とゆるやかな繋がりをもつこと
- 支援者自身の心のゆとりをもつこと
- 当事者を障害ではなく、人として理解し、「出来る力」を信じること
- 完璧を目指さず、悩むことを良しとする
- 他者の価値観を受け入れ、考える
- 正解がないことを信じる



高次脳機能障害のある方の就労を焦点に

- 働き盛りの方々が、高次脳機能障害になることは、大きな社会的損失でないか？
- 2050年には、1人の高齢者を1人の若者が支える時代になり、就業人口年齢の高齢化も避けられず、脳血管障害を伴いながら働く方々が増えるのでは？
- 高次脳機能障害のある方々の復職・就職支援を通じて、就労支援機関が、企業の雇用管理にもコミットしていくことが問われているのでは？
- 今、「働き方改革」が叫ばれる中で、高次脳機能障害の課題を、国の施策へしっかり反映させていくことが問われるのではないか？
- 来年度、高次脳機能障害就労支援の全国集い開催に向けて

是非見学に
お越し下さい。

ご清聴
ありがとう
ございました。



障害のある方 × 企業の架け橋に

障害があっても普通に「暮らし」「働く」地域社会の実現に貢献します。

クロスジョブグループの理念

希望と約束を大切に
日々の支援を振り返り高めあい
障害のある方が企業で働く未来に貢献します